

JSS 海外安全速報

聖週間・イースター期間中の報復テロに要注意

《キリスト教圏、中東、アジア、アフリカ等：テロ》

1. 昨年パキスタンなどで銃撃テロが発生

4月14日（日）～4月21日（日）は、キリスト教徒にとってクリスマスに並ぶ重要行事である「聖週間」とイースター（復活祭）に当たり、これらにちなむ祭礼や催しが世界各地で行われる。また、今年ユダヤ教の過ぎ越しの祭り（ペサハ：4月19日～4月27日）とも重なる。

近年の聖週間の期間中とその前後には、次のようなテロが発生した。

〔近年の聖週間・イースター期間中の主なテロ〕

《2015年》

4月 2日（木）：[ケニア] 東部のガリッサ郊外のガリッサ大学でソマリアのイスラム武装勢力「アル・シャバブ（AS）」が襲撃テロ（キリスト教徒の学生を中心に150人死亡、253人負傷）

《2016年》

3月27日（日）：[パキスタン] 夜、第2の都市ラホール公園で自爆テロ（キリスト教徒72人死亡、300人以上負傷）。イスラム武装勢力「パキスタン・タリバン運動（TTP）」の分派、「ジャマート・ウル・アハラル（JuA）」が犯行声明。

《2017年》

4月 9日（日）：[エジプト] 午前9時30分頃、北部の都市タンタの聖ジョージ教会の礼拝堂内で、座席下に仕掛けられた簡易爆弾（IED）によるテロ（28人死亡、78人負傷）

〃 [エジプト] 午後0時30分過ぎ、北部地中海沿いの同国第2の都市アレキサンドリアのエジプト・コプト教会聖マーク大聖堂入口で自爆テロ（警備の警察官を含む17人死亡、48人負傷）。両事件とも「イスラム国（IS）」が犯行声明。

《2018年》

4月 2日（月）：[パキスタン] 夜、バルチスタン州の州都クエッタ中心部で、キリスト教徒の家族4人の乗ったオートリキシャ（3輪タクシー）に対し、バ

イクに乗った武装グループによる銃撃テロ（4人死亡）。事件後、ISが犯行声明。

今年、3月15日のニュージーランドのモスク襲撃テロ（50人死亡）を受け、ISが支持者に報復を呼びかけていることや、ISのシリア・イラクの“領土”が消滅して、最初の聖週間であることなどから、欧米諸国や中東・アジア・大洋州などでキリスト教徒への報復テロが危惧される。

また、パキスタンやアフガニスタンなどのイスラム過激派も異教徒や異宗派を敵視しているほか、トランプ米大統領が、3月25日にイスラエルが占領するゴラン高原の同国の主権を承認したこともあって、こうした祝祭は普段以上にリスクが高まる。

各地のリゾートでも、バカンスで訪れる西洋人を狙ったテロのリスクが存在する。

期間中は治安当局が警戒を強化するものの、単独もしくは少人数のグループによる車両暴走テロや銃乱射、ナイフ攻撃などの犯行を未然に阻止することは困難なので、多数のキリスト教徒や西洋人が集まるような場所では警戒心を保持しておく必要がある。

なお、キリスト教圏では、聖週間には帰省費用を稼ぐ目的の強盗盗や、酔っ払い同士の喧嘩、留守宅を狙った空き巣狙い、交通事故、火災なども増加するので、それらに関する諸々の対策も忘れてはならない。

2. 駐在員・出張者の留意事項

- ① 緊急連絡先の登録された携帯電話を常時携帯し、現地拠点や本社等と速やかに連絡を取れるようにしておく。
- ② 祭礼の日程などの事前把握に努め、必要により各種行事で多数の人々が集まる場所・地域に近づく場合は、万一の事態を想定しておく。
- ③ キリスト教会、シナゴグなどの宗教施設、欧米やイスラエルなどの外交施設、有名観光スポット・市場やショッピングモール、コンサートや宗教関連のイベント会場、人気スポーツの試合場等々、テロの標的になりかねない場所での長居を避ける。また、欧米人観光客の集団からは可能な範囲で距離を置く。
- ④ レストランを利用する場合は空いている時間帯を選び、万一の場合に被害を受けやすい表通りや来客用出入口に近い席を避けて、非常口に近く奥まった席を確保する。
- ⑤ 空港等では所持品検査が行われている出入口付近に長居しない。旅客機に搭乗する際は、出発時は極力早い時間に搭乗手続きを済ませて、いち早く手荷物検査を経て奥の制限区域内に入る。到着時は素早く到着ロビーを抜けて、所定の交通手段で速やかにターミナルビルを離れる。
- ⑥ 外出先や身近な場所で不審物を発見した場合、爆発物等の可能性があるため絶対に近寄らない。
- ⑦ 銃声や爆発音を耳にしたら、直ちに音と反対の、安全と思われる方向へ避難する。

以上

本レポート内容の全部または一部の転送・転載・第三者への提供を厳禁します。